報道関係者各位

プレスリリース

発表日：2026年11月19日

発表元：株式会社タカミヤ

タカミヤ、異業種8社と連携し、建設業界の課題解決に向けた「TAKAMIYA FAIR 2026」を開催

～運搬ロボットや遠隔無人フォークリフトなど、建設現場の未来技術が集結～

足場をはじめとする建設業界のプラットフォーマーとして、業界課題に革新的なソリューションを創造しつづける株式会社タカミヤ（以下タカミヤ、大阪本社：大阪市北区、東京本社：東京都中央区、代表取締役会長兼社長：髙宮一雅）は、2026年10月15日（木）・16日（金）の2日間、Takamiya Lab. West（兵庫県尼崎市）にて、建設業界の課題解決に向けた共創型イベント「TAKAMIYA FAIR 2026 未来を、共に。ここから。」を開催しました。

2回目の開催となる今回は、ロボット、AI、遠隔操作などの先端技術を持つタカミヤを含む９社、17点の製品・サービスが展示され、2日間で551名が来場しました。会場では、運搬ロボットや「未来足場」の構想、遠隔無人フォークリフトなどを紹介。建設業界が抱える人手不足や技能者の高齢化といった課題に対し、省人化・生産性向上の可能性を発信しました。



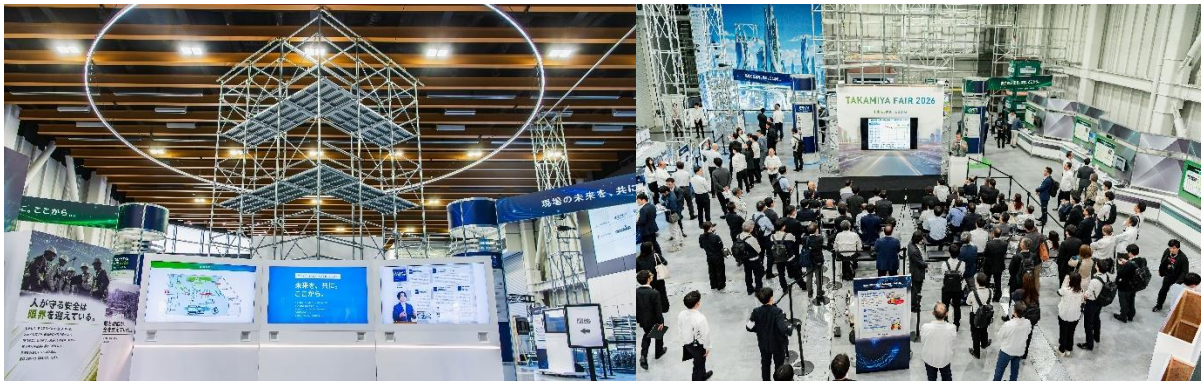
■開催の背景：人手不足が深刻化する建設業界、異業種との共創で現場の省人化・自動化を推進

建設業界では、技能者の高齢化や若年層の入職者不足により、人手不足が深刻化しています。国土交通省の資料によると、建設業の就業者数は1997年の685万人をピークに減少し、2025年には478万人と約30%減少しています(*)。機材の積み込みや運搬、荷上げなど、人手に頼る作業も多く、作業員の負担軽減や生産性向上が急務となっています。こうした課題を解決するためには、建設業界内の取り組みだけでなく、他業界が持つ先端技術や知見を取り入れ、業界の垣根を越えた連携を進めることが重要です。

こうした背景のもと、タカミヤは異業種との共創を通じて建設業界の課題解決を加速させるため、「TAKAMIYA FAIR 2026」を開催しました。ロボット、AI、ドローン、遠隔操作などの先端技術を持つ異業種8社が出展し、建設現場の具体的な課題に対応する技術を展示・実演しました。

その象徴的な取り組みが、マッスル株式会社と共同で開発を進める「未来足場」の構想です。タカミヤが持つ建設現場の知見と、マッスル社のロボット技術を掛け合わせ、足場のあり方そのものを見直す新たな技術開発に挑戦しています。タカミヤにとっては、足場を提供する企業でありながら、足場の組立・解体そのものを減らすという従来の常識を覆す発想であり、マッスル社にとっても、これまでにない規模の装置製作への挑戦となりました。こうした異業種が互いの技術や知見を持ち寄ることで、一社では生まれなかった発想や、双方に新たな価値を生み出す共創の可能性を示しました。

*出典：国土交通省「建設業を取り巻く状況等について」P.3（総務省「労働力調査」を基に作成）





■来場者から注目を集めた、建設現場の課題解決につながる展示

①　「未来の足場」を構想する「ワイヤー式垂直パラレルリンクロボット」

タカミヤとマッスル株式会社が連携して先行開発を進める、ワイヤー式の機構を活用したロボット技術です。機材を上下左右・斜め方向に移動させることで、荷上げや運搬作業の省人化・効率化を目指します。

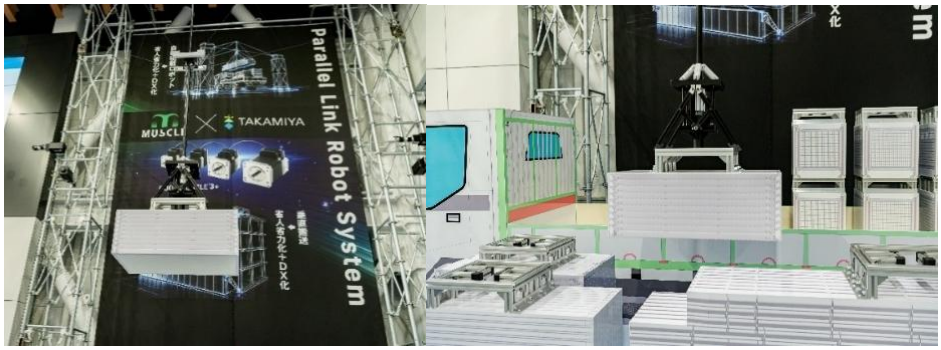
将来的には作業床自体が建物に沿って自在に移動する「未来足場」への展開を構想。足場の組立・解体作業の削減や工期短縮を目指します。



②　熟練技能に頼る積み込み作業の自動化を目指す「未来のトラック積載システム」

タカミヤとマッスル株式会社が連携して開発を進めているコンセプトモデルで、足場機材をトラックへ積み込む作業の自動化を図るものです。軽量・コンパクト・高性能なマッスルのサーボモーターと、簡易に組立解体が出来るタカミヤの次世代足場「Iqシステム」を使用し、ワイヤー式水平パラレルリンクロボットを構築し、将来的にはAIによる積載判断などを組み合わせることで、熟練者への依存軽減や作業時間の短縮を目指します。

今回、開発段階の構想を公開することで、異業種の企業から改良点や新たな活用方法について意見を得る機会となりました。完成した技術を紹介するだけでなく、さまざまな分野の知見を取り入れながら、今後の開発の可能性を広げることも、展示の狙いです。



③　既存車両を遠隔操作、現場にいなくても機材を運搬できる未来へ 「遠隔無人フォークリフト」

株式会社マクニカとタカミヤが連携し、建設現場における資材運搬の省人化や作業員の安全性向上を目指す取り組みです。

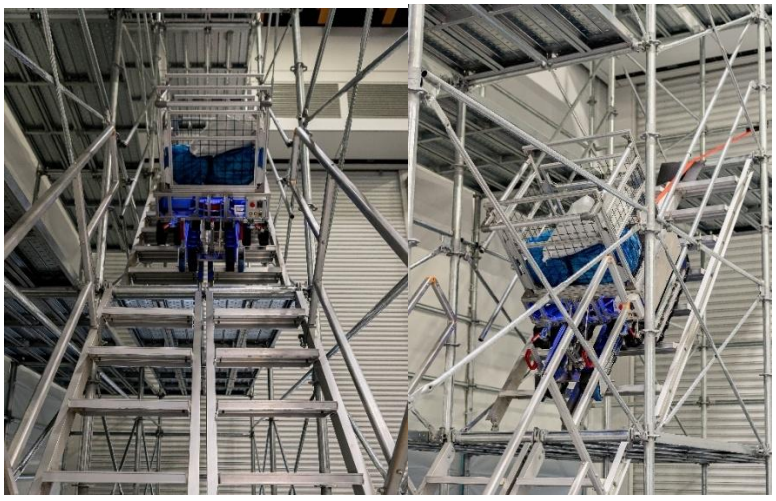
マクニカの遠隔運行管理システム「everfleet（エバーフリート）」を活用することで、オペレーターが現場にいなくても、離れた場所からフォークリフトを操作できます。車両に設置した複数のカメラ映像や車両情報をモニターで確認しながら、資材の持ち上げや運搬が可能です。将来的には、一人のオペレーターが複数の現場を担当する運用や、自動運転と遠隔操作を組み合わせた運用も視野に入れています。危険な作業場所から人を遠ざけるとともに、限られた人員で複数の現場に対応できる環境を目指し、建設業界の人手不足や生産性向上といった課題の解決につなげていきます。





④　最大120kgの資材を階段で運搬する「階段を昇降するロボット」

タカミヤと建ロボテックが足場階段での活用を進めている、階段や傾斜地での重量物運搬を支援するロボットです。独自のロープクライミング機構を採用し、最大120kgの資材運搬を想定。平坦な場所では台車としても使用でき、作業員の身体的負担軽減につなげます。



■その他の出展企業・展示内容
今回のフェアでは、上記4つの共創・共同開発事例に加え、AIやドローン、ウェアラブルデバイスなど、さまざまな分野の技術やサービスが紹介されました。各社が持つ技術や知見を建設現場の課題と結びつけることで、安全性の向上や省人化、業務効率化など、幅広い課題解決の可能性を示しました。

■主な出展企業・展示内容
企業名｜出展内容｜解決する課題
アクトワンヤマイチ｜点検ドローン・AIカメラ・暑熱対策AIカメラなど｜安全管理・業務効率化
テラダ産業｜ハーネスフック検知システム「ハーネック」｜安全管理
ビースポーク｜多言語対応の研修用AIソリューション「BeTrained」｜人材育成・技能継承
Fairy Devices｜ウェアラブルデバイス「THINKLET」を活用したAI解析｜遠隔支援・現場データ活用
Rist｜AIカウントシステム「Deep Counter」｜機材管理・DX

■イベント概要

- 名　称：TAKAMIYA FAIR 2026 未来を、共に。ここから。
- 日　時：2026年10月15日（木）・16日（金）
- 会　場：Takamiya Lab. West
- 所在地：兵庫県尼崎市船出21-1
- 対　象：建設関係者、および建設分野への技術導入・共創に関心を持つ企業・団体

- イベントHP：https://www.takamiya.co/takamiyafair-2026

■タカミヤプラットフォームを通じて建設業界全体の生産性向上へ

タカミヤは建設業の深刻な人手不足・コスト高などの問題に対応するため、建設ソリューション群「タカミヤプラットフォーム」を提供しています。足場等の仮設機材の調達・運用を支援するマーケットプレイスやデジタル設計支援などのサービスから、鳶職人に特化した無料の求人サイトまで、多様なサービスを通じて建設現場の課題解決を支援しています。

今回の「TAKAMIYA FAIR 2026」は、こうした取り組みを発展させるため、異業種企業の技術や知見を結集し、新たなソリューションの創出を目指し開催いたしました。ロボットやAI、遠隔操作などの先端技術を建設現場の課題と結びつけるとともに、企業間の交流を通じて新たな協業の可能性を探る機会となりました。

今後も、フェアを契機とした異業種企業との連携を深め、共同開発や技術の実用化を推進します。タカミヤプラットフォームの充実を図り、建設現場の省人化・自動化、安全性向上を通じて、建設業界全体の生産性向上に貢献してまいります。



■株式会社タカミヤについて

建設現場で使われる仮設機材をはじめとする、住宅用機材、構造機材、農業用ハウス、防災用ダムなど多彩な製品について、開発・製造から、販売、レンタル、設計、施工までトータルにサービスを提供しています。技術革新を通じて付加価値の高い製品やサービスを生み出し、地下工事から超高層建物、高速道路、橋、農業、自然災害対策分野など、さまざまな「現場」の安全性・施工性を向上させ、業界の発展に貢献しています。

社名　　：株式会社タカミヤ
代表　　：髙宮 一雅
本社所在地：大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 タワーB 27階
　　：東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング12階
URL　　：https://corp.takamiya.co/
設立　　：1969年6月21日
資本金　　：10億 5,214万円
従業員数　：751名（連結従業員数 1,345名）
事業内容　：仮設機材の開発、製造、販売及びレンタル、仮設工事の計画、設計、施工ならびに建設現場の課題解決に向けたプラットフォームサービスの提供

【本件に関する問い合わせ先】
タカミヤ広報事務局：シェイプウィン株式会社（担当：齊木、江原、勝山）
03-6427-2298　press-takamiya@shapewin.co.jp